

週日の説教

金 大烈 神父 2011年11月10日(木)

《神の国はあなたがたの間にある ～『比喩的な生き方』～》

今日の福音(ルカ 17・20 - 25)の中で目に止まったのは、「**実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。**」という箇所です。“私たちの間に神の国がある”とは、どういう意味でしょうか。私たちは、本物の天国・地獄は知らないのに「これはまるで天国のようだ」とか「これはまるで地獄のようだ」とよく言います。しかしイエス様は、「あなたがたの間に神の国はある」とおっしゃいました。つまり、よく生きることが出来れば、本物の神の国に入る前に、あらかじめ神の国を味わうことができる、ということです。

皆様の24時間の中に、天国のような時間は何秒くらいあるのでしょうか。そして地獄のような時間は何時間になるのでしょうか。

『たとえとしての生き方』という神学的な言葉があります。難しく言えば『比喩的な生き方』です。これは、“神様の教えてくださったみ国を感じさせるような美しい生き方”のことです。そのような生き方を神様のみ国を知らない人々に見せるのが、クリスチャンの一つの使命です。

皆様も私も、比喩的な生き方をしなければなりません。しかし、難しいです。

霊性的に、神様のみ国を一番よく表しているのは修道生活だと言われています。特に観想修道会の生活です。何もなくても、いつも清い声で笑っています。腹を立てるようなことがあっても、たぶん彼らは憐憫の心で祈るのでしょう。

実は、そのような生き方は、私たちの間でも十分に可能なことです。**み国は作るものではなくて、既にあるものを見つけるものなのです。** 出会う人々の中にみ国を現せるかどうかは、私たちの責任です。地獄を体験している人にも天国の味を味あわせることができれば、それが**真**^{まこと}の天国の生き方ではないかと思います。

今日の福音を読んでもう一回考えてみましょう。できるだけ、自分からは憎まないようにしましょう。相手が憎むのは構いません。自分からは憎みたくない、という望みが必要です。

頑張りましょう。今、憎んでいる人、一番嫌いな人を一人だけ思い出してみてください。その人への憎しみを消しましょう。それをイエス様の前で約束しましょう。イエス様にそういう意向を持ちましょう。

ありがとうございました。